

平成26年 9月 定例会（第316回） 川口議員

◆四十四番（川口正志）（登壇）川口正志です。私は、御所市民の皆さんとご支援をいただく支援者の皆さんに感謝をいたしながら、なら元気クラブを代表して、質問をさせていただきます。

次に、リニア中央新幹線の駅の場所やルートの早期決定に向けた、県の取り組みについてお尋ねします。

この八月にJR東海は、環境影響評価の手続を経て、国土交通大臣に対して、工事実施計画の認可申請を行い、東京・名古屋間では二〇二七年の開業に向け、リニア中央新幹線の建設が今まさに始まろうとしています。

一方、名古屋・大阪間においては、環境影響評価の手続すらなされていません。国の基本計画や整備計画において、主要な経過地として奈良市附近と決定されていますが、ルートについては、国の審議会で二十キロメートル幅の範囲が示されているのみで、より詳細な駅の場所やルートは明らかにされておりません。昨年十二月に、県内の三十三市町村が参加した「奈良県にリニアを！」の会が、東京・大阪間の全線同時開業、ルートは整備計画どおりの三重・奈良ルートとすること、駅を交通結節性の高い場所に一本化することについて決議しました。また、これまでに県内三十四市町村の議会においても、同様の決議がなされており、

私たち南部振興議員連盟のメンバーは、南部地域のさらなる振興と活性化のためにも、駅の場所やルートについては、開業による便益が県南部を含む奈良県全体に、また紀伊半島地域をはじめとする、より広い地域に波及するよう、国の審議会で示された二十キロメートル幅のできるだけ南側の交通結節性の高いところが望ましいと考えており、早期に決定をしてほしいと思っております。今後、リニア中央新幹線の駅の場所やルートの早期決定に向け、県はどのように取り組んでいくのか、知事の所見をお尋ねいたします。

◎知事（荒井正吾）（登壇）四十四番川口議員のご質問にお答え申し上げます。

リニア中央新幹線に対する県の取り組みについてのご指摘、ご意見、ご質問がございました。

リニア中央新幹線は、新幹線の駅も空港もない、全国三つの県の一つに奈良県はなっております。我が国の国土軸から外れていて、発展がおくれがちである象徴でございます。極めて重要なプロジェクトでございます。経済活性化だけでなく、本県の性格が変わるほどの大きな効果があるプロジェクトだと思います。

リニア中央新幹線の奈良市附近駅の位置やルートにつきましては、建設主体でございますJR東海が調査検討を行い、決定されることとなりますが、環境影響評価の手続を進める過程で、超電導リニアの技術的制約、地形・地質や環境要素による制約などがございます。この分野は地元、県が全面的に協力すべき事項でございますが、そのような調査の結果、おのずからルート、駅は絞り込まれてくるものと考えております。

奈良市附近駅、また三重・奈良ルートの早期決定に向けましては、一日も早く名古屋・大阪間の環境影響評価の手続に着手していただくことが必要でございます。これまでもその点を強く訴えてまいりました。三重県や本県の経済団体とも連携して、国やJR東海に対して、この点を訴えてきております。去る九月三日におきましては、三重・奈良両経済団体が第五回三重県・奈良県リニア中央新幹線建設促進会議を開催いたしまして、両県の国会議員、県会議員の先生方にも参加していただきました。これを踏まえまして、この十一月十二日には、三重県知事とともに上京して、国などに対し、直接強い働きかけをさせていただきたいと思っております。

また、リニア中央新幹線の建設に当たりましては、必要となる建設用地の取得やトンネル残土の処分、駅前広場の整備や交通アクセスの確保など、地元となる地域に対して、さまざまな協力が期待されております。このような地元の協力がなくなかなか進まないのが鉄道整備でございます。受け入れ体制づくりも地元として必要でございます。本県といましては、具体的にどのような協力や受け入れ体制の準備が、JR東海様またこのプロジェクトに対して役立つか、先行的な研究をしっかりと進めていきたいと思っております。

◆四十四番（川口正志） 答弁ありがとうございます。

リニアの問題ですが、これは何といったって、JR東海が動いてくれなきゃどうにもならないというような状況だと、私は思っております。過般、私もJR東海のかんりの有力者とも交流をいたしました。なかなかいろいろな障害があるようでございますが、私どもはやっぱり何といったって名古屋・東京間と同時に大阪・名古屋間が開業できるような方向

平成26年 9月 定例会（第316回） 川口議員

で、JR東海を動かさないかと、このように思います。どういう手だて、いろいろ考えなきゃならん、あるいはまた強力ないろんな手だてを組み立てなきゃならん、このように思うわけですけど、私は、奈良、その周辺の二十キロメートルの範囲、これをなぜ南の方へと、こう申し上げたのは、かつて私は知事からも激励をいただいたように思いますが、やがて北高南低じゃなしに、均衡ある奈良県政の発展ということで、県庁を橿原市に持ってきてもらいたいと、この夢をまだ持ち続けたいと思いますので、できるだけやっぱり南の方へ、つまり中央の方にリニア奈良駅がつけられることを願ってやまないと、このように思う次第です。要望し続けると、世論を広めてまいりたいと、このように思うわけでありま